

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

浜 田 市

2 地域再生計画の名称

海彦・山彦活性化計画（地域資源を活用した観光再生計画）

3 地域再生計画の取組を進めようとする期間

平成 16 年 7 月から 概ね 3 年間

4 地域再生計画の意義及び目標

【意義（現況と課題）】

浜田市は、海、山、川などの豊かな自然に恵まれ、古くから水産都市として栄えるとともに、島根県西部の政治、経済、文化等の中心として発展している。

また、市の地形は、東西に細長く北側の海岸部と南側の山間部とは接近しており、海と山の両方の自然を活用した事業も進みつつある。

特に、海は、浜田市の基幹産業である水産業の源であり、さらに浜田港を核とした海外との交流拠点として、また文化の礎として、そして近年では、海水浴だけでなくマリンレジャーを中心とした観光資源としても注目されている。

近年、古くから基幹産業として当市の経済の根幹を支えてきた水産業は、資源の枯渇、従事者の高齢化、後継者不足等により、生産額が激減し低迷する一方で、平成 3 年の中国横断自動車道広島浜田線の開通により、100 万人都市広島市等からの夏季の海水浴客を中心として観光入り込みが増えるなど、海を水産業の源としてだけでなく、幅広く活用することが重要となってきた。

このような中、平成 12 年度に当地域の観光の核施設となる海洋型ミュージアム(水族館)「しまね海洋館アクアス」がオープンし、観光入り込み客は、それまでの 100 万人余りから平成 12 年度は 268 万人と飛躍的に増加した。

しかし、その後、平成 13 年度は 173 万人、平成 14 年度は 142 万人余りと減少傾向に転じている。

「アクアス」がある島根県立石見海浜公園は、海水浴場としては、平成 13 年に「日本の水浴場八十八選」に選定され、また、オートキャンプ場では平

成 6 年に「世界オートキャンプ大会」が開催されるなどしており、マリンスクールの等海の幅広い活用が可能となっていることから、「アクアス」を核として浜田市の特性である海や山などの自然、そして地域のもう一つの財産である伝統芸能「石見神楽」を活かした更なる観光振興が求められている。

【今後の目標】

今後の観光振興を図るに当たっては、浜田市の財産であり特性である青い海、緑の山野などの自然と古くから地域の人々に親しまれている伝統芸能「石見神楽」、そして観光の核施設である「アクアス」の活用、更には車で 30 分圏内にある周辺町村の温泉、スキー場等との連携も図り、通年滞在型の観光を目指していく。

また、これらの情報発信や観光客の受け入れ等が一体的に図られるように、情報の一元化、関係団体との連携強化、そしてこれらを十分活用するための人材の育成等に地域再生計画にある支援措置を活用して取り組む。

具体的には、次のような取組みを進める。

（１）海彦（ブルーツーリズム）

夏季の海水浴を中心とした観光客に、新たな海の楽しさを提供するため、ジェットスキーやバナナボート等を活用したマリンスクールの実施、またより安全な海水浴を提供するためのライフセーバー養成のための教室の開催などを民間事業者を中心に取り組む。

また、既存のヨット等を係留するためのマリーナが手狭となり、不法係留があることから、港湾施設を活用したマリーナの新設についても民間事業者と検討する。

現在、広島を中心として山陽方面から多くの釣り客が訪れているが、更に手軽に釣り等が体験できるよう漁協や渡船業者等と連携し、船釣りや地引網等の漁業体験事業についても検討していく。また、海岸沿いにある民宿とも連携し、安価で宿泊し取れたての魚が食べられ、また漁業体験もできるというようなツアーの企画などについても検討していく。

一方で、観光客に新鮮で安価、そしてこの地域オリジナルの海産物がお土産等として提供できるよう、現在進めている浜田市のブランド 3 魚（どんちっち 3 魚）であるノドグロ、アジ、カレイの水産加工品のブランド化についても水産加工業者等と一体となって取り組む。

以上のように、今後、海を幅広く活用する海業（うみぎょう）として展開していく。

(2) 山彦 (グリーンツーリズム)

海とともに浜田市の豊かな自然の源である山野を活用した体験型観光を農業体験事業を中心として取り組む。

既に、子供の宿泊体験事業や村人制度により農業体験事業に取り組んでいる民間事業者があることから、この事業を 1 事業者の個人事業とするのではなく、浜田市全体のグリーンツーリズム事業として広げられるように取り組む。

具体的には、構造改革特区の申請による廃校を移築した施設の宿泊施設としての活用や既に実施している自家所有の茶畑での茶摘み体験等の拡充、お茶の木オーナー制度等に取り組む。

また、他の農業者等との連携による新たな農業体験メニューの構築、安価で宿泊できる民宿との連携による宿泊体験ツアーの企画、また、ブルーツーリズムとの連携による「海彦・山彦満喫ツアー」の企画等についても連携して取り組む。

(3) 石見神楽の活用

石見神楽は、海や山などの自然と同様に当地域の貴重な財産であり、伝統芸能として子供から大人まで幅広く親しまれているとともに、勇壮な神楽舞は観光客にも大いに喜ばれている。

また、駅前商店街では石見神楽を街づくりのコンセプトとして位置付け、商店街の愛称を石見神楽のお囃子の音から「どんちっちタウン」としているほか、市においても昨年度宝くじ助成事業により駅前に石見神楽をモチーフとしたからくり時計「どんちっち神楽時計」を設置するなど石見神楽は地域活性化の一翼を担っている。

この他にも、石見神楽をイメージした「どんちっち」という言葉は、特産品の名称や交番の名前にも使用されるなど幅広く活用されている。

年に数回開催される神楽大会には、市内は元より市外、県外からも多くの観覧者が訪れ、また、毎週日曜日に開催する定期上演にも毎回多数の人が訪れている。

今後は、定期上演の拡充や好評を得ている神楽体験教室の継続等を図るとともに、常設の神楽館の建設についても神楽社中や関係団体等と検討していく。

また、石見神楽を演じる社中 (団体) は現在市内に 1 2 社中あるが、いずれも後継者不足等であることから、学校活動への神楽の導入、子供神楽の振興等により後継者の育成に努める。

(4) 相互連携による一体的な情報発信と体験ツアー等の実施

上記のような地域資源を活用した浜田市独自の観光振興を図るためには、一体となった情報発信、そして3つの要素を織り交ぜた体験型観光事業の構築が必要である。

そのためには、各省庁等が横断的に連携した共通プラットフォームへの相談や地域再生支援チームによるアドバイザー派遣等を活用しながら、これまで個別に活動している海彦・山彦・石見神楽の連携を図るための官民関係団体一体となった組織づくりとその組織を動かすための体制整備を図るとともに、観光地づくりの基盤となる人材育成の支援措置を活用しながら、その組織を動かすための人材育成を図る。

上記のような組織の構築により、具体的には、周辺市町村も含めた観光施設等の情報の集約とその情報を一元的に発信するための海彦・山彦ネットワークバンク等の構築と、さらに、海彦・山彦・石見神楽を中心として他の地域資源も活かした四季を通じての体験ツアーの提供等をインターネットを活用して行う。

体験ツアープランの提供

四季を通して自然を生かした体験ツアープランを作成し、インターネットを活用して参加者を募集し実施する。また、一般的な体験ツアーだけでなく、専門家による基礎知識の習得ツアーや特化したエコツアーなどを実施する。

【例：春プラン…山菜取り、夜釣り、石見焼体験等、夏プラン…海水浴、マリンレジャー、キャンプ、乗馬等、秋プラン…梨狩り、ゴルフ、神楽面体験、神楽観賞等、冬プラン…スキー、温泉、和紙作り等、習得ツアー…石見神楽習得ツアー、ダイビングツアー、まちづくりツアー等】



企画プランの提供

ア：わがままツアー

観光客の希望をパソコンで受け、希望に合うツアープラン（オーダーメイドツアー）を作成し、海彦・山彦ネットワークバンク登録施設の予約、手配等を行い提供する。団体の場合は、添乗も行う。

イ：仲良しツアー

学校や企業のクラブなどの合宿、修学旅行等の団体用の企画プランを作成し提供する。

観光情報等の提供

ア：既に作成されているホームページなどを活用し、観光、イベントをはじめとした地域情報の提供を行う。

イ：地元商店と連携し、特産品のバーチャルショップを併設し、ツアー客のお土産の受付・発送と全国からの注文への対応を行う。

以上のような取組みにより、観光振興による地域経済の活性化を推進していく。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

当市の財産である海や山を漁業や農業としてだけでなく、自然を生かした体験型観光施設として活用することにより、低迷する景気や雇用の拡大を図る。

平成 12 年度に「アクアス」のオープンにより、観光入り込み客は、それまでの 100 万人余りから平成 12 年度は 268 万人と飛躍的に増えたが、その後平成 14 年度は 142 万人余りと減少傾向にあることから、年間 150 万人の入り込みを目標とし取り組む。（詳細数値は、別添）

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- ・ 212014 観光関係の施策連携（共通プラットフォーム）
- ・ 212015 「地域再生支援チーム」の設置
- ・ 212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実
- ・

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組みその他の関連する事業

(1) その他の関連する事業

・ マリンスクール支援事業

民間事業者で行うマリンスクールの運営に対して支援を行う。

・ 農作業体験等支援事業

県の新鮮力創造事業の認定を受け、農作業体験・共同体験・自然体験等に関する事業を民間事業者に委託して実施する。

・ 石見神楽振興事業

より多くの人々に石見神楽を理解してもらうため一般の人を対象に石見神楽学校を開催するとともに、神楽グッズの商品開発を行う。

・ 観光ボランティア育成事業

現在、天然記念物の「石見畳ヶ浦」を対象として行っている観光ボランティアガイド（18人）のガイド対象施設の拡大とガイドの増員を図る。

・特産品の開発・販売促進事業

農水産加工品をはじめ、石見神楽関連グッズ等の新商品の開発、既存特産品の販路拡大等を支援する。

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
なし

別紙 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容、支援措置を受けようとする者及び支援措置を講じようとする日

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212014 観光関係の施策連携（共通プラットフォーム）

2 当該支援措置を受けようとする者

浜田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

市内において、海、山等の自然、そして地域の伝統芸能である「石見神楽」を活用した観光振興に取り組もうとする民間事業者、そして関係団体等があることから、これらを横断的に連携することにより、体験型観光を一体的に実施するための組織の構築と地域情報の一元化と一体的な情報発信が図れるような体制の整備等を行う。

そのためには、国の施策に関する情報、各省庁への相談等を行う必要があることから、これらについて一元的な対応とワンストップによる相談が可能となる本支援措置の共通プラットフォームを活用して、相互連携による一体的な自然体験型観光を推進する。

また、事業実施に当たっては、専門家による指導、助言等も必要であることから、アドバイザーの派遣等についても本支援措置を活用して行い、当地域独自の魅力ある観光振興に取り組む。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212015 「地域再生支援チーム」の設置

2 当該支援措置を受けようとする者

浜田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

市内において、海、山等の自然、そして地域の伝統芸能である「石見神楽」を活用した観光振興に取り組もうとする民間事業者、そして関係団体等があることから、これらを横断的に連携することにより、体験型観光を一体的に実施するための組織の構築と地域情報の一元化と一体的な情報発信が図れるような体制の整備等を行う。

そのためには、国の施策に関する情報、各省庁への相談等を行う必要があることから、これらについて一元的な対応とワンストップによる相談が可能となる本支援措置の地域再生支援チームを活用することにより地域の支援に関する相談を行う。

また、事業実施に当たっては、専門家による指導、助言等も必要であることから、アドバイザーの派遣等についても本支援措置を活用して行い、地域の支援に関する相談を行う。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

2 当該支援措置を受けようとする者

浜田市

民間事業者(石央マリン株式会社、有限会社ふれあい総合農場しまね)

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

海、山等の自然を活用した体験型観光事業に積極的に取り組もうとする民間事業者があることから、その核となる人材、組織等の育成を図るとともに、これらが実施する事業の連携を図り、体験型観光事業の一元化と一体的な情報発信を行い、1年を通して自然体験型観光事業が提供できる体制作りを目指していく。

そのために、現在、海・山それぞれを中心として取組みを進めている民間事業者及びその中心的役割を果たしている人等を平成16年度に実施される支援措置である観光カリスマ塾等に参加させることにより人材の育成を図るとともに、平成16年度において、国から情報提供される各地の先進的なボランティアガイドやNPO活動、地域づくりの先進事例等の情報を得て、これを活用することにより地域資源を活用した観光振興を図っていききたい。